特集 第11回全国和牛能力共進会を終えて

畜産酪農部

季節のエッセー

いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「エノコログサ」

（イネ科）

道ばたや空き地で、エノコログサが穂を垂れるようになると、もう秋も近い。子どもたちは赤トンボを追いながら、エノコログサを摘み、その穂で「毛虫だ！」と言って仲間をおどかしたり、互いにくすぐり合って遊んだものである。

『植物の名前小辞典』（清水清著）によると、エノコログサという名前は、この草の穂を子犬の尻尾にたとえたものだという。すなわち「犬の子草」とか。どうやらそれが、「犬ころ」から「エノコロ」に変化したらしい。その語源はどうあれ、エノコロという言葉の響きは、この草の穂の可愛らしい姿や、優しい手触りを、よく表しているような気がする。

これを猫に見せると、夢中になってじゃれるので、「ネコジャラシ」とも呼ばれる。穂が金色をしているのは、キンエノコロ。

参考資料:澤口たまみ著『岩手の野草百科』（岩手日報社発行）より

純情産地発 クラーラ
KLARA
vol.819
2017.10

タイトルのKlara（クラーラ）は、宮沢賢治の手帳にしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの力で！
がんばろう！岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草 …… 02
特集
第11回全国和牛能力共進会を終えて …… 03
消費地だより …… 06
銀河食堂info …… 06
みんなの分教場 …… 07
報告！出向く活動班 …… 08
純情むすめ活動記 …… 09
純情人 …… 09
ニュースワイドアングル …… 10

1.第11回全国和牛能力共進会の概要

第11回全国和牛能力共進会（以下「全共」）は、9月7日から11日まで、種牛の部は仙台市の「夢メッセみやぎ」で、肉牛の部は「仙台市中央卸売市場食肉市場」において、全国39道府県、種牛330頭、肉牛183頭により開催されました。

全共は、それぞれの時代における和牛生産と改良上の重要課題を反映した出品区を設定し、日常の登録事業を通じた改良成果の検証と併せて、次世代を託せる素材の選抜と展示により、今後の和牛改良の方向性を明示することとしています。

前回の長崎全共（平成24年開催）では「和牛維新」をテーマに掲げ、より効率的な和牛生産と改良に向けた基盤づくりを最重点項目と位置付け、和牛の経済形質の向上に貢献できる合理的な指標である「種牛審査標準」を改正しました。今回は、「種牛審査標準」が適用されて5年が経過した全共となり、繁殖雌牛集団の過半数がこの「種牛審査標準」による選抜を経た牛群で構成されました。

■概要

主催　公益社団法人全国和牛登録協会
参加　39道府県

最終比較審査

会　期		平成29年9月7日（木）～9月11日（月）	
会　場	種牛の部	宮城県仙台市	夢メッセみやぎ
	肉牛の部	〃	仙台市中央卸売市場食肉市場
品頭数		種牛330頭　肉牛183頭　計513頭	

2.宮城全共のねらい

今回の宮城全共は、肉用種としての特徴の堅持と、種牛性の一層の改良という課題に取り組んできた成果を積み上げながら、改良をより確実なものとして、開催テーマ「高めよう生産力、伝えよう和牛力、明日へつなぐ和牛生産」のもと、「和牛維新」の達成に向けた取り組みを推し進めることをねらいとしました。

（1）「高めよう生産力」

生産効率の向上と繁殖能力の改良を推し進めることとし、分娩間隔の条件を400日以内としている。

（2）「伝えよう和牛力」

①牛肉ブランド、種牛産地のブランド、新しい県産ブランド等を全共の場を通じて、全国に発信すること、また、和牛の魅力を若い人たちに伝えることによって、生産基盤を拡充し、地域振興につなげる。

②和牛界では、遺伝的多様性の縮小が課題であり、地域の特色ある系統の再構築が必要不可欠となっていることから、系統遺伝子を次世代に伝える。

③おいしさの指標である「オレイン酸」含有量も審査基準に取り入れられている。

（3）明日へつなぐ和牛生産

①復興特別区「高校の部」の実施

②全共という1つの目標に向かって頑張ることで、産地の活性化を図る。

3.本県の代表牛と成績

第11回全国和牛能力共進会（宮城全共）成績表

1. 審査競技会

部門	岩手県		最優秀賞	優秀賞		
	成績	出場者名				
女性	優秀賞	岩渕　恵美	新潟県	沖縄県	岩手県	愛知県
後継者	―	吉田　開	岐阜県	宮城県	新潟県	鹿児島県
高校生	―	菊池　晃広	群馬県	長野県	宮崎県	京都府

2. 復興特別出品区「高校生の部」（総合序列）

岩手県		最優秀賞	優秀賞		
成績	出場者名		1席	2席	3席
優良賞	盛岡農業高校	岐阜県立飛騨高山高校	宮崎県立高鍋農業高校	兵庫県立但馬農業高校	宮城県柴田農林高校

3. 共進会

出品区分		岩手県		優等賞			備考
		成績	出品者	1席	2席	3席	
第1区	若雄	優等賞3席	県種山畜産研究室	鹿児島県	大分県	岩手県	
第2区	若雌の1	優等賞8席	JA新いわて　高橋　勇一	宮城県	大分県	鹿児島県	
第3区	若雌の2	1等賞6席	JA岩手ふるさと　安倍　諒	鹿児島県	宮崎県	大分県	
第4区	系統雌牛群	優等賞6席	いわて和牛中央育種組合	大分県	宮崎県	鹿児島県	種牛の部「名誉賞」
第5区	殖雌牛群	優等賞9席	岩手ふるさと和牛改良組合	宮崎県	鹿児島県	大分県	
第6区	高等登録群	優等賞10席	宮古下閉伊和牛改良組合	鹿児島県	宮崎県	大分県	
第7区	総合評価群	1等賞2席	県南和牛育種組合	宮崎県	鳥取県	大分県	
		（種牛群13位　肉牛群9位）		（種2・肉3）	（種5・肉1）	（種3・肉4）	
第8区	若雄後代検定牛群	1等賞	いわて和牛中央育種組合	宮崎県	鹿児島県	山口県	肉牛の部「名誉賞」
第9区	去勢肥育牛	1等賞	JA新いわて　中村　鉄男	鹿児島県	京都府	宮崎県	
		1等賞	JA岩手ふるさと　高橋　清文				

4. 出品団体表彰

首席／鹿児島県、次席／宮崎県、3席／大分県、4席／宮城県、5席／鳥取県、6席／北海道

4.おわりに

出品者・農協担当者を始めとした関係者は、本県代表としての使命を果たすため、並々ならぬプレッシャーの中、引き運動・調教・手入れ等、多大な時間と労力をかけ調整しました。

また、最終比較審査会場においても、「チームいわて」として、出品者団長の岩渕孝幸さん（岩手ふるさと農協所属　5・7区に出品）を中心に一致団結し、農協、岩手県、市町村、畜産協会、枝肉購買者、帯同した農家の方々等、多くの皆さんが一生懸命頑張りました。本県代表牛は、最後の最後まで全力で全国に「いわて牛」を披露しました。

今回惜しくも代表に選出されなかった多くの生産者、関係者の皆さんにつきましても、平成26年の交配からご協力頂きました。

関わって頂いたすべての皆さんに、感謝申し上げます。

今回の成績は決して満足いくものではありませんが、若い出品者や農協技術者が多く参加し、技術伝承や経験値という面では、次に繋がる収穫もありました。

今回を総括し、「牛づくりは人づくりから」を念頭に、次回鹿児島全共に向け取り組みますので、今後ともご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

2区

1区

4区

3区

6区

5区

高校の部

7区

純情ブランド消費地の「今」をリポートします。

消費地販売部発 消費地だより

『いわて純情野菜』量販店でのPR活動について

消費地販売課
佐藤 亮太

今年の野菜の販売状況は7月の高温・好天続きによる前進出荷と、8月以降の低温・曇天続きによる遅れなど、昨年と対照的な天候のため入荷量も大きく異なっています。そのような状況の中、本会では店頭での試食宣伝会を積極的に展開し、いわて純情野菜の消費拡大に力を入れています。特に、大型量販店では生産者にも店頭に立って販促していただき、消費の最前線を体感して頂きました。試食されたお客様からは「おいしい」「甘い」「家でも試してみたい」との感想や「私も岩手出身だから買いに来た」という方も少なからず来店されました。また、今年度初の試みとして夏場の生しいたけ消費宣伝を実施致しました。これらPR活動の展開によって、その日の売上アップへの貢献や、取り組みへの反響も大きくリピーターとなる販売店もあり様々な成果を得られています。今後は、冬場の生しいたけ・りんごも併せて強化しながら〝いわて純情野菜〟および〝いわて純情りんご〟の消費拡大に努めて参ります。

これからは、ねぎ・しいたけなど秋冬品目が年末へかけ、出荷が本格化となります。東京にも岩手産を待っているファンが大勢おりますので、期待に応えられるよう、皆様たくさんの出荷をお願い致します。

東京都内を中心に首都圏各地で試食宣伝を実施致しました。

新米へ切り替えます!!

いわて純情米の店「銀河食堂」でご提供している県産オリジナル品種「銀河のしずく」と「金色の風」が、10月中旬から新米に切り替わります。たわわに実り、黄金色に輝いている稲。その稲から収穫する、とれたてホヤホヤの美味しいご飯をご提供いたします。「銀河のしずく」は現在、女優「のん」さん（純情産地いわて宣伝本部長）をはじめとし、芸人の「ANZEN漫才」や「どぶろっく」など、TV業界を盛り上げている方々が出演するTVCMが話題となっております。県内はもちろん、関東地区・関西地区・中京地区でも放送。「銀河のしずく」を〝宇宙最強米〟として、全国の消費者へPRしていきます。そんな〝宇宙最強米〟「銀河のしずく」と今年全国デビューする「金色の風」の新米食べ比べができる、いわて純情米の店「銀河食堂」へぜひお越しください。

銀河食堂info

「銀河のしずく」をPRするCM「宇宙最強米への道」

みんなの分教場

米穀の保管環境点検と衛生管理について

米穀部　米穀販売課
保管アドバイザー
伊藤 専一

農業倉庫業法が平成28年4月1日の改正農協法の施行により廃止となった中、平成29年3月から5月まで、農林水産省穀物課によるCE、RC、農業倉庫を対象として、全国一斉に米穀保管管理施設等の環境点検及び現地調査・視察が実施されました。

1. 米穀の保管環境点検について

農林水産物の輸出が拡大している中、和食が平成25年ユネスコ無形文化遺産に登録され、また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催により、国内外から「日本食」への関心が高まっています。また、お米は日本の主食とし、国内のみならず海外からの関心が高い中、農林水産省穀物課　岸企画官は、お米の品質、保管倉庫の環境整備など、保管管理の重要性は増していると話しています。

安全・安心と信頼の確保では、ハサップが推進（精米HACCP認定事業所34社、37工場）され、お客様である米卸売事業者や食品加工事業者は、自分が扱っているお米について、田んぼから食卓までの工程に関心を持っております。各施設の管理者は施設環境の整備について、見せられる施設とし、高い意識・認識を持ち続けることが大切です。

日常管理では、5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）の徹底が重要です。農林水産省は、今回の調査結果を踏まえ、保管環境の視察や助言を目的とした、施設巡回に取り組むこととしています。

2. 集計結果の概要について

CE、RC、農業倉庫の米穀保管管理施設等の環境点検は、施設の部、保管管理の部、入出庫の部とし点検シートにより行われました。この結果が平成29年7月に農業倉庫基金より概要とし報告がありました。

3. JAグループの対応について

5Sや防虫・防鼠をはじめとして、施設の衛生管理は、消費者や食品業界から求められる中、ますます重要となっており、継続し行うことが大切です。

農業倉庫保管管理強化月間では、自主保管マニュアル等に定めた内容の確実な実行と、保管管理日誌の記帳を推進するとともに、倉庫施設の点検、清掃や整理・整頓等、保管環境について点検表により倉庫巡回を実施しています。また、ポスターの標語を「消費者に見せられますか、その倉庫」として保管管理の強化運動を進めており、今回の農林水産省の環境点検及び現地調査を、さらに見直す機会と捉え、施設の衛生管理の強化に対応するとしています。

岩手県JA農業倉庫・カントリーエレベーター保管管理協議会は、国民の主食である国産米麦の安定供給に貢献できるよう、保管環境の改善と衛生管理の推進に積極的に取り組んでまいります。

表1　保管環境点検シート回答状況

倉庫等	農業倉庫基金登録倉庫（岩手）		保管環境点検回答数（岩手）	回答比率全国（岩手）
	登録数（岩手）	収容力（千トン）		
JA等経営者数	556（　8）	—	497（　8）	89%（100）
普通倉庫数	5,929（209）	5,841（299）	3,948（197）	67%（ 94）
CE施設数	1,205（ 29）	2,659（ 79）	615（ 29）	51%（100）
RC施設数	—	—	1,014（ 65）	—

農業倉庫基金資料

表2　施設管理の結果

倉庫等	建物の管理及び点検		設備の管理及び点検		薬剤設置管理	
	自ら実施	業者委託	自ら実施	業者委託	自ら実施	業者委託
倉庫	41%（44）	50%（29）	40%（43）	53%（48）	63%（54）	15%（12）
CE	38%（62）	53%（26）	29%（55）	65%（41）	38%（17）	51%（59）
RC	51%（54）	43%（43）	42%（37）	51%（43）	52%（66）	34%（29）

注:（　）の数値は岩手　　農業倉庫基金資料

表3　保管管理（環境）及び書類整理の結果

倉庫等	環境維持（清掃等）		保管管理マニュアル		保管管理日誌	
	施設外自ら実施	施設内自ら実施	策定	なし	記録	なし
倉庫	97%（98）	98%（100）	81%（95）	18%（ 4）	78%（ 95）	11%（ 2）
CE	95%（55）	98%（100）	77%（97）	17%（0.0）	94%（100）	3%（ 0）
RC	内外99%（95）		67%（69）	31%（23）	87%（70）	11%（18）

注:（　）の数値は岩手　　農業倉庫基金資料

生産者と共に奮闘する担い手サポートセンターの活動をリポート

報告！ 出向く活動班

今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
新沼 真也

じゃじゃじゃTV「純情1×2×3」取材ルポ！

今回は、現在IBC岩手放送で放映中のじゃじゃじゃTV「純情1×2×3」の取材に同行しましたので、その模様を報告します。

IBC 風見アナと(農)上小田代の皆さん

今回の取材は、9月9日(土)に放映しました。ひころいちファーム(陸前高田市)の代表・村上一憲さんが、6次産業化商品に取り組む先輩産地である、JA江刺管内の農事組合法人(以下「(農)」)上小田代を訪問し、「とまと味噌ラーメン」の開発や販売までの苦労話などをお聞きし、自分たちが手掛けている「米粉シリアル」の開発意欲の糧にするために訪問するという設定で取材が行われました。

現地9時集合にも関わらず、取材班は8時半前にはスタンバイしており、取材に懸ける意気込みを感じました。取材班は、風見アナ・プロデューサー・カメラマン・営業部担当者の4名で、出演者は(農)上小田代の伊藤周治組合長と奥さん、従業員の伊藤さん、そしてひころいちファームの村上代表で、進行役の風見アナの軽快なトークで収録がスタート。本会2名(及川・小職)、JA江刺今野部長と岩手広告社宮さんが立ち会いました。

クッキングトマト「すずこま」の収穫の仕方を説明中

さぁ～収穫開始。こんなんでいいがな～?

収録は、とまと工房から1km離れた圃場での「クッキングトマト・すずこま」の収穫体験から始まりました。工房に場所を移し、トマトの洗浄作業・カット作業・ミキサー掛け、越し器でこす作業を行いました。そして、トマトをズンドウに移し、煮込んで水分調整を行い、「クッキングトマトすずこまピューレー」が完成。

このピューレーをベースとし、味噌と調味料を加えてスープを作り、こだわり麺を湯がき、挽き肉と数種類の野菜を炒めます。ゆで卵半個をトッピングすると、「とまと味噌らーめん」の出来上がりです。

収穫体験と試食会の中で、新商品の考案とその商品の安定した販売まで漕ぎ着ける苦労や努力等の話に花が咲きました。

収録に掛かった時間は、5時間(9時～14時)。昼食も取らずに、ぶっ通しで行われましたが、放映される時間を聞いたところ、7分程度とのこと。編集に2日間掛かるそうです。プロデューサーも大変だなと感じました。

ちなみに「クッキングトマトすずこまピューレー」は、本会の紹介で、仙台駅前の「エスパル仙台」の「グリルみのる」と「みのりカフェ」で原材料として使用されています。また、この秋から盛岡フェザン店の「みのるダイニング」でもメニュー化される予定となっていますので、駅にお立ち寄りの際は是非召し上がってみて下さい。美味しいこと請け合いです！。

収穫後水洗いして、6等分にカット

さぁ～!試食会"どうぞ めしあがれ!"右から、風見アナ、村上代表、伊藤組合長、奥さん、伊藤さん

カット後、ミキサーに掛け、越し器でこして、煮詰めればピューレーの出来上がり

とまと味噌ラーメンの完成! マジうんめぇ～!

笑顔がはじける

純情むすめ活動記

「純情むすめ、大阪へ！」

2017いわて純情むすめ
佐藤 由紀

9月2日と3日は「純情マルシェ in 大阪」と題し、アウトレットパーク内で岩手県産の野菜・果物や6次産業化商品の販売をしました。最高級品種とも呼ばれる〝紅ロマン〟は、甘味と酸味のバランスの良い味や、つやのある鮮やかな色に惹かれたのか、大阪の方々にもご好評でした！私自身、お恥ずかしい話ですが、今回の業務で初めて〝6次産業化商品〟という存在を知りました。農家のみなさんが生産だけでなく、加工や販売まで携わっていて驚きました。とても素晴らしいものですが、私を含めた若い世代や岩手県内、そして県外で岩手の〝6次産業化商品〟を知っている方は少ないのではと思います。農家のみなさんの熱意や農産物だけではないということを今後PRできればと思いました。

また、4日は大阪鶴見市場での花卉展示フェアでの業務でした。花卉のせり会場がすべてコンピューター搭載されていることやその規模の大きさに感動しました。花卉展示フェアでは〝りんどう〟を中心としたアレンジメントがしてあり、これまでの〝りんどう〟のイメージを変えるものとなったように思いました。来場されたお客様にも〝りんどうは仏花のイメージ〟という意見を持っていましたが、青や紫だけでなくピンクや白など様々な色があり素敵だとお褒めいただきました。

これから、岩手の農畜産物を単に紹介するだけではなく、たくさんの方々に今よりもっと興味をもっていただける、そして新たな発見へとつながるようなPRをしていけたらと思います！

JA全農いわての 純情人（じゅんじょうびと）

米穀部
米穀販売課
工藤 達也（くどう たつや）さん

趣味・特技

ドライブ、映画鑑賞、バレーボール

現在の担当業務

主食用米の受渡業務

これからどんな職員になってみたいか

不測の事態にも落ち着いて対処できるようになりたいです。また、広い視点でものごとを考えられる職員になれるように精進します。

その他アピールしたいこと

至らぬ点が多く、周囲にご迷惑をおかけする毎日ですが、早く一人前になれるように努力していきます。

日本一に輝く！！

9月15日（金）

JA-POP甲子園2017表彰大会

全農主催の「JA-POP甲子園2017」で、県内ＪＡが全国一位となりました。この大会は、農薬の売り場の陳列・実績を競い合うもの。開催目的は、農薬を販売する資材店舗の活性化をねらい、生産者の皆様の満足度を向上することです。

全農が独自に取り扱っていることを示す「デカぞう君マーク」が貼り付けられている大型規格剤を中心に、お客様にとって買いやすい売り場になっているのか、購買意欲を喚起する陳列になっているのかが審査されました。また、陳列だけではなく、実績も審査基準にされました。

今回、「ジェイエース（殺虫剤の名称）・ラウンドアップ（除草剤の名称）部門」で、岩手中央農業協同組合のグリーンセンター都南が、最優秀賞を獲得し、9月15日（金）に東京で開催された表彰大会に招待され、表彰されました。

【ジェイエース・ラウンドアップ部門】で全国一位に輝いた岩手中央農業協同組合のグリーンセンター都南の陳列

「協同組合の思想と実践」ユネスコ無形文化遺産登録記念!!

9月12日（火）

「みどりの風プレゼント」抽選会

9月12日（火）、岩手県産業会館で、「みどりの風プレゼント」抽選会(岩手日報7月30日掲載)が開催されました。この抽選会は、ＪＡの農畜産物・特産加工品等のＰＲを目的とし、県内７ＪＡ、ＪＡ全農いわての提供で毎年実施されています。応募総数は2378通で、53名が当選しました。ＪＡ全農いわてからは、「いわて牛サーロインステーキ200ｇ×3枚」。７ＪＡからは、「いわて奥中山高原アイス８個詰め合わせ」、「ひえ焼酎ケーキ」など、各ＪＡの特徴が表れた商品が用意されました。

抽選はＪＡ岩手県五連の久保憲雄会長、小澤隆一副会長、ＪＡ全農いわての畠山俊彰本部長、県内７ＪＡの組合長らが行いました。今年は、初めて特賞が設置され、全賞品が５名様にプレゼントされます。この特賞は、平成28年11月に「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを記念して、設置されました。協同組合の存在意義を、多くの方に知っていただける機会となりました。

特賞を抽選する、JA岩手県五連久保会長（左）と小澤副会長

健康に育てた豚を消費者へ

9月12日（火）

平成29年度岩手県農協養豚経営者連絡協議会研修会

岩手県農協養豚経営者連絡協議会による研修会が、9月12日（火）に、花巻市内のホテルで開催されました。生産者・農協・ＪＡ全農いわておよび関係会社の担当者48名が出席しました。

この研修会では、養豚・飼料情勢の報告や、平成29年度肉豚出荷成績優秀者の表彰式が開催され、ＪＡ新いわての農事組合法人八幡平ファームが総合部門の最優秀賞を受賞しました。

研修会後半には、豚の病気を早期発見・治療する「ＩＰＣ（豚個体治療）」の紹介や、北日本ＪＡ畜産株式会社による農場紹介が行われ、さらなる技術向上を目指し、健康に育てた豚を消費者にお届けできるよう、情報を共有しました。

各部門の肉豚出荷式成績優秀者受賞者ら

接客技術のさらなる向上にむけて

9月10日（日）

第41回いわてJA-SSドライブウェイサービスコンテスト

いわてJA-SSチェーンは、9月10日（日）に、ＪＡおおふなとのせたまいＳＳで、第41回いわてJA-SSドライブウェイサービスコンテストを開催しました。

このコンテストは、JA-SSスタッフの接客技術とサービス向上を目的に毎年開催されており、今年で41回目。県内JA-SSよりフルサービスの部に9名、セルフサービスの部に8名が出場しました。選手らは、この日のために練習を重ね、日頃の成果を披露しました。

いわてJA-SSチェーン本部の菊池晋本部委員長は、大会開会式で、「接客やサービスの提供力を向上し、地域の皆様に愛されるＳＳ作りが最も重要であり、この大会は、技術を磨く大切な場です。さらなる技術向上を目指してもらいたいです。」と話しました。

審査員は４人おり、スタッフ一人ずつ、お客様への対応やサービスの審査を行いました。審査のシナリオは決まっていましたが、選手の立ち振る舞いには、一人ひとりの個性が表れていました。審査の結果、フルサービスの部では、ＪＡおおふなとのおおふなとＳＳの新沼好さん、セルフサービスの部では、㈱ＪＡグリーンサービス花巻矢沢ＳＳの堀合俊太さんが優勝。選手らは、大会に向けて磨いてきた接客技術を日常業務で活かし、さらなるサービス向上を目指します。

審査を受ける選手と、審査を見守る応援団

小学生、牛への理解を深める

8月29日（火）

酪農出前教室

8月29日（火）、一関市立新沼小学校で、岩手県牛乳普及協会主催の酪農出前教室が開催されました。目的は、酪農への関心と牛乳を飲む必要性についての理解醸成で、1～6年生の児童29名が参加しました。

出前教室は6月下旬から複数回行われてきましたが、今回は今年度初の「青空コース」（乳牛の体の仕組みや牛乳の栄養についての話、バター作りの他に、搾乳体験と牛との触れ合いが追加されるコースです。）を実施。地元である一関市藤沢町生産者の伊藤順市さんの協力の下、2頭の牛（搾乳牛と子牛）が学校の校庭に運搬され、搾乳体験や哺乳体験、牛の心臓や胃袋の音を聴くといった体験を行いました。

同小学校の佐藤紹栄校長は、「牛と触れ合う体験は貴重であり、児童の生きものに対する思いやりを、育てることに繋がります。」と、体験の意義を話しました。

子供たちは、牛との触れ合いの他、本会畜産酪農部酪農課の丸田博課長による、牛についての講義や殺菌温度・乳牛の種類が異なる3種類の牛乳の飲み比べ、地元乳業者または不二家乳業の協力によるバター作りを体験。子供たちは、「牛の種類がたくさんあって、びっくりした」「牛の体の構造が人間と違って、驚いた」など、感想を述べていました。

驚きながらも、搾乳体験を楽しむ子ども

生産者の思いが詰まった花が勢ぞろい

9月8日（金）・9日（土）

いわてフラワーコンテスト2017

JA全農いわて園芸部花き・資材課は、北上市にある岩手県農業研究センターで、いわてフラワーコンテスト2017を開催しました。今年度で36回目。このコンテストは、県内花き生産者の技術向上と生産意欲の高揚を図るとともに、県内で生産される花き類（切花・鉢花）を県内外に紹介することにより、花き需要の拡大をねらったものです。

1日目に審査、2日目に一般公開および販売会を実施しました。1日目の審査では、全国1位の生産量を誇るりんどうや、同じく主力品目の小菊など、174点が出品されました。厳正な審査の結果、新いわての八幡平の三浦正美さんが最優秀賞（農林水産大臣賞）に選ばれました。2日目の一般公開では、165点（2等賞・3等賞・奨励賞・受賞外）が販売され、完売。最優秀賞・優秀賞・一等賞に選出された9点は、9月10日（日）～11日（月）の2日間にかけて、盛岡駅構内わんこロードで展示され、通行人の目を楽しませました。

いわてフラワーコンテスト2017 受賞者名簿

◆最優秀賞（1点）

JA	受賞者	出品財	特別賞
新いわて 八幡平	三浦　正美	りんどう 安代の輝き	農林水産大臣賞

◆優秀賞（4点）

JA	受賞者	出品財	特別賞
新いわて 東部	及川　茉優	トルコギキョウ オレンジフラッシュ	農林水産省 生産局長賞
いわて平泉	千葉　栄子	小菊　響	農林水産省 東北農政局長賞
新いわて 八幡平	八幡園芸	鉢りんどう　クリスタルアシロ	岩手県知事賞
新いわて 奥中山	坂戸　英之	りんどう　しなの3号	岩手県知事賞

2日目の一般公開の様子。美しい県産花きがお客様の心を賑わせました

編集後記

ぐっと気温が下がり、肌寒く感じる日が多くなりました。実りの秋を迎えています。県内各地で稲刈りが盛んに行われる時期がやってきました。来月号では、その様子をお伝えできたらと思います。（佐藤）

［お詫びと訂正］
先月発行しました「クラーラ」9月号に誤りがありました。
P10～11「NEWS WIDE ANGLE」
（誤）盛岡大学附属高等学校へエール　6月26日（木）
（正）盛岡大学附属高等学校へエール　7月28日（金）
読者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をおかけしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

純情産地発 KLARA
JA全農いわて通信 クラーラ
平成29年10月1日発行 No.819
【編集・発行】JA全農いわて 総合企画課 【印刷】株式会社 杜陵印刷

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
■営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
■安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
■地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ
〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
http://www.junjo.jp

PRINTED WITH SOYINK